

図書館と自習室の混雑に関して

【ご意見・ご要望】（投稿日：2017年4月24日）

図書館と自習室に関して質問と意見をさせていただきます。

・背景

附属図書館や吉田南総合図書館では、大半の学生が閲覧席を蔵書と関係のない自習のためのスペースとして利用していると思います。3年ほど前までは閲覧席を利用する学生が少なく、立派な図書館が勿体無いと感じるほどでした。しかし、あくまで私の主観ですが、Learning commons が設置された頃から図書館で勉強をする学生がどんどん増え、閲覧席が満席となることが多くなっています。学外者利用が制限される試験期間はもちろんのこと、通常期でも空机がないことがあり、図書館本来の役割である図書の閲覧に不便を感じるが増えてきました。

また、学習室24もほぼ満席であることが多い印象です。自席を離れるとすぐに埋まってしまうため、荷物放置による席の確保が横行している状態です。

・質問

- (1) 各図書館や学習室に関して、混雑状況や利用実態の把握は一元的に行われているのでしょうか。
- (2) 学内での自習環境の向上のために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。

・意見

- (1) 図書館の混雑解消を目的として、使用していない講義室の解放や新たな自習室の設置などを希望します。
- (2) 学習室24の拡充、または類似施設の新設を希望します。

【回答】（回答日：2017年5月29日）

（附属図書館利用支援課、教育推進・学生支援部教務企画課）

図書館の利用に関してご質問いただき、ありがとうございます。

最初にご質問に関して回答いたします。

- (1) 各図書館や学習室に関して、混雑状況や利用実態の把握は一元的に行われているのでしょうか。

回答：図書館機構を構成する学内約50か所の図書館・室のほとんどが参加して、年に1回、図書館活動に関する統計をとっており、それによって利用者の実

態を把握するようにしています。京都大学の図書館・室は、それぞれ独自に管理する蔵書と利用規則によって運営されていることもあり、全図書館・室の利用実態の把握が一元的に行われているとは言い難い状況です。しかしながら、各図書館・室では上記の統計結果を通して自らの図書館の利用実態の把握をしつつ、利用者へのさまざまなサービスを展開しています。以下は、附属図書館の状況について、回答いたします。

附属図書館においては、先にあげた年1回の統計の他に、必要に応じて不定期に行われる利用状況調査、またラーニング・コモンズでは平日に1日2回、学習室24では夜間に6回、滞在者数調査を実施しています。

統計や調査の結果から、例えば入館者数について、ラーニング・コモンズが設置された直後の平成26年度にいったん入館者数が落ち込みましたが、その後ラーニング・コモンズを始めとする館内設備や機能に関する利用者の認識が定着したこと、加えて開館時間が増えた影響もあり、入館者数は増加に転じています。また、席数はラーニング・コモンズが設置される前の平成24年の1,305席から平成28年度には1,330席へと、若干増加しています。

それから、同じく附属図書館の例ですが、授業期のどの時期にあっても授業の合間の休憩時間に入館者数が多く、3限と4限の間、2限と3限の間、4限と5限の間という順番で入館者が多いことも把握しています。

- (2) 学内での自習環境の向上のために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。

回答：以下も、附属図書館の事例を中心に回答いたします。附属図書館では、ラーニング・コモンズのようにディスカッションが可能なスペースを提供する一方で、静寂さを保ちながら落ち着いて学習できるサイレントエリアを3階南側に設けています。このように、多様化する利用者の学習スタイルやニーズに応えられるよう学習環境を整備することは世界各国の大学図書館に求められてきたことで、京都大学でも、そうしたニーズにできる限り応じられるよう、自学自習環境の充実に努めています。サイレントエリアについては、試験期には利用者が増えますが、通常期は比較的空いていることが多いので、サイレントエリアもぜひお使いください。

また、これまで館内整備のために月末平日1日を休館としていましたが、平成29年度からは開館日に変更した結果、年間の開館日数が増えました。

入館者が特に増える試験期には、附属図書館では3階のライブラリーホールの開放による臨時的閲覧席の増設や、学習室24では荷物放置による席の占有を防ぐ措置として、職員による巡回を昼間2回実施し、長時間放置されている荷物を職員が気づかった上で他の利用者のための席を確保するなど、よ

り多くの利用者が快適に閲覧できる環境づくりに取り組んでいます。

附属図書館以外の学内の部局図書館・室においても、平成 28 年度から試験期における臨時の開館時間延長や開館日を増すなどの取り組みを行っており、それぞれ工夫をこらした自学自習環境の充実に努めています。

次にご意見についての回答です。

- (1) 図書館の混雑解消を目的として、使用していない講義室の解放や新たな自習室の設置などを希望します。

回答：講義室の開放、自習室の設置は各施設管理部局の所掌事項となりますので、ご意見をいただいたことをお伝えします。

また、既にご承知かもしれませんが、学内には以下のとおり複数の OSL が設置されており、常時 PC 端末を利用する目的でなくとも、自学自習のための利用が可能です。

<https://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ecs/use/satell.html>

ご所属の学部・研究科に設置された OSL に加え、附属図書館、吉田南総合図書館、メディアセンター北館及び南館の OSL は所属を問わず利用可能ですので、是非ご活用ください。

- (2) 学習室 24 の拡充、または類似施設の新設を希望します。

回答：学習室 24 は昼夜に亘り提供している自学自習スペースであり、飲食を可能とするスペースも併設しています。学習室 24 は、附属図書館の開館日の増加に伴って開室日が増えましたが、年間を通した利用実態に加え、夜間の利用者の安全確保に関する課題やスペース全体の衛生面の観点から、また、図書館内での静寂な学習スペース確保の観点からも、現在この拡充は予定しておりません。

京都大学の各図書館・室では自学自習環境の充実にためのさまざまな取り組みを行っております。今後とも図書館をご利用いただきますとともにご意見・ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。